

1 総合課題

健やか山梨21 -2008年版-

<現状と課題>

- 「健やか山梨21」の認知率（37%：平成16年度県民栄養調査）を高める
- 健康寿命日本一の維持

基本指針

《取り組みの方向性》

- 「健やか山梨21」の普及
- メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の正しい知識の普及
- 地域・職域保健連携の推進
- 健やか山梨21推進会議構成団体との緊密な連携（各健康課題参照）

◆ 評価

目標設定	対象	目標値	ベースライン値	直近実績値	評価
健やか山梨21の認知率	男女 (20歳以上)	100%	37.0% (H16)	35.4% (H21)	C
健康寿命の延伸	男女 (20歳以上)	維持	日本一 (H15)	日本一 (公表H20)	A
メタボリックシンドロームの概念を知っている人の割合	男 (20歳以上)	100%	46.1% (H18)	62.0% (H21 15歳以上)	B
	女 (20歳以上)	100%	51.8% (H18)	66.6% (H21 15歳以上)	B

A 目標に達した B 目標値に達していないが改善傾向にある C 変わらない
D 悪化している E 評価困難

【現状と課題】

○健やか山梨21の認知率は、中間評価後の2006年版で設定された指標である。各推進団体等の協力を得る中で健康づくりの必要性等推進したものの認知率は伸びなかった。

○健康長寿の延伸についても、中間評価後の2006年版で設定された指標である。ベースライン値は、平成15年度(H16.3.)健康寿命実態調査報告書(山梨県)によるもの。平成15年の介護保険データ、H12年国勢調査人口データ、H12年市町村別生命表などから計算したもの。また、直近実績値は、H20年度(H21.3.)に県立大学の小田切教授が、H17年の国勢調査による都道府県別完全生命表、同年10月の要介護認定者数を基にサリバン法により算出したもので、日本一を維持している。

○健康寿命については、H24.6国の厚生科学審議会 地域保健健康増進栄養部会において「健康日本21(第2次計画)」の新たな数値目標として都道府県別順位が資料として出され、山梨県は、男性5位、女性12位であった。ここでの算出は、日常生活に制限のない期間を、国民生活基礎調査「あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか」との調査項目に基づき算出したもので、介護保険の要支援・要介護者数を使用している山梨県とは算出方法が異なっている。どの値を使用していくか、検討が必要である。

○「メタボリックシンドロームの概念の普及」は、中間評価後策定した2006年版で達成指標として掲げられ、2008年版にH18生活習慣病実態調査の結果を示している。これをベースライン値とした。直近値としては、H22県民栄養調査の値(15歳以上)を使用した。若い年代から、この概念を知っている人の割合が増加しているが目標値には到達しなかった。

【今後の方向性】

○新たな健康増進計画の普及啓発を行っていく。

○健康長寿の延伸は、引き続き健康増進計画の柱としていく。

○メタボリックシンドロームの概念の浸透については、100パーセントを目指し今後も普及啓発を行う。

【参考】 健やか山梨21推進会議、構成団体の取組みの一部(H23)

健やか山梨21推進会議	健やか山梨21推進大会の開催、健康づくり作品募集・優秀作品の展示、いきいき山梨ねんりんピック 健康フェアの開催
山梨県国民健康保険団体連合会	山梨ねんりんピック 健康フェアの開催
山梨県愛育連合会	定期総会資料、事業計画として「健やか山梨21」の推進を掲げる
山梨県老人クラブ連合会	高齢者向け運動・生活習慣病の講演会・体力測定
山梨県健康管理事業団	健康づくりの意識啓発のための講演会の開催
市町村	市町村健康増進計画の策定と推進
県保健福祉事務所	生活習慣病予防講習会、小規模事業所への出前健康講座